

### 第3回名張市地域公共交通会議議事概要

日 時：平成20年5月8日（木） 午前10時～

場 所：市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

#### （1）委員

中村 俊行（三重交通株式会社伊賀営業所所長）

小松 信三（三重近鉄タクシー株式会社名張営業所所長）

深山 美芳（深山運送有限会社取締役）

田中 真一（社団法人三重県バス協会代表）

井川 敏雄（名張市区長会会長）

竹森 富雄（名張市老人クラブ連合会会長）

田中 恒紀（名張市身体障害者互助会会長）

金内 薫（市民公募）

神生 紘一（市民公募）

奥野 三男（国土交通省中部運輸局三重運輸支局 首席運輸企画専門官）

森澤 淳（三重交通労働組合伊賀支部 書記長）

山岡 照和（三重県伊賀建設事務所副所長兼保全室長）

山原 理克（三重県名張警察署交通課長）

笠原 正嗣（皇學館大学社会福祉学部 准教授）

館 敏雄（三重県政策部交通政策室長）

杉永 光价（名張市都市環境部長）

#### （2）事務局：都市環境部交通対策室3名

会議の公開・非公開： 公開

傍聴人： なし

内 容：・薦原地域のコミュニティバス実証運行について

・国津コミュニティバスに係る有償運送の更新登録について

**会長** 事項書に基づき事務局から説明をお願いします。

**事務局** 薦原地域におけるコミュニティバスの実証運行についてご説明させていただきます。(資料に基づき説明)

**会長** 実証運行の期間としては、現在の予定では7月1日からをめぐりということ、この会議で承認を得られれば今後その作業を進めていくということです。この件につきましてご意見、ご質問等あればお願いいたします。

**委員** 今回の薦原の運行計画をみると、運行ルートをちょっと延ばせば交通不便地域の美旗とエリアをうまくまとめられるような気がするんですが。

**事務局** 薦原のルートは20キロ弱あり、葛尾から名張駅まで45分を要するため、これ以上はなかなか厳しいということで、地域としては、薦原地域だけでやってきたいということです。

**会長** 時間的な部分と地理的な部分で難しいということですね。ただ、14地域の中で他地域に渡るといふ運用は、今後の可能性として、効率的な運行ができるのであればある程度の柔軟性も持っていただければと思います。ところで、今回の運行時刻の設定は、どのような利用者の方を想定したものなのでしょうか。

**事務局** 基本的には高齢者の方でありますとか、交通移動不便者といわれる方をターゲットとしており、9時発で桔梗が丘の駅まで行きますと、そこからは電車や路線バスなどを使って移動してもらおうということです。

**会長** そうして1時半ごろ駅へ戻ってこられて2時過ぎにご自宅のほうへということですね、わかりました。車両としてはどんなものを使われるんですか。

**委員** 39人乗りの乗車定員で、座席数については概ね15席程度、それ以外はつり革や握り棒をお使いいただく立ち席になります。

**委員** 桔梗が丘のバス停は東側ですか、西側ですか。

**事務局** 近鉄百貨店側を利用させていただく予定ですので、東の広場になります。

**委員** さつき台に車イスに乗っている方がおられますので、実証運行期間に低床バスを導入できないかといったこともご検討いただきたいと思います。

**会長** 小型のバスを使うというのは、道路幅等も関係するんですか。

**事務局** 八幡など、小型のバスでぎりぎりのところもありますし、バスの回転なども考慮して小型のバスで運行ということになっています。

**委員** 道が狭いといったことなども地元が一番良く分かっていると思うんです。地元で協議した上でこのバスで行くということを出してきたということだと思います。

**会長** 地元の声としてそういったことがあれば、また将来的な部分で対応していただければと思います。

**委員** 桔梗が丘のバス停なんですけども、さつき台のほうを回るのであれば、近鉄百貨店の反対側のほうが距離も近いし止めやすいんじゃないですか。

**事務局** 基本的に地域がバスの経営をされますので、近鉄百貨店の利用ですとか、バス

の乗り継ぎの本数もちらのほうが多いといったことで地域のほうでこのように決められたということです。

**会長** それでは、薦原地域のコミュニティバスの7月1日からの実証運行の実施について、ご承認いただけるという形でご異議ございませんでしょうか。(異議なし) ありがとうございます。ご承認をいただいたということで決議しておきます。それでは続きまして協議事項の2番目、国津のコミュニティバスに係る有償運送の更新時期がきましたので、その更新についての協議に入りたいと思います。説明をよろしく願います。

**事務局** (資料に基づき説明)

**会長** あららぎ号の利用状況としては、ある程度、地域のバスとして国津地域に浸透し、地域の財産としての認識もいただいているということですね。つつじが丘での三重交通バスへの乗り継ぎの便を良くするためダイヤの改正も行われたようです。この乗り継ぎの便数というのは今まではこんなに多くはなかったんですか。今回、11便に増便されたということなんですけども。

**事務局** 今までは8便でしたが、今回11便ということで増やしていただいております。

**会長** これは乗り継ぎはスムーズにしていだけるんですか。

**事務局** 路線バスが1時間に4本通っている地域ですので、乗り継ぎとしては比較的便利だと思います。

**会長** 16年10月から運行されていますけども、何か地域の中で感じられている課題というようなものはあるんでしょうか。例えばダイヤの設定や停留所の位置も含めてですけども、その辺は特に問題はないですか。

**事務局** 国津は全部で9地区あるんですが、その中には、不便であるがゆえにお車をお持ちで、また、いくつになっても運転をされるということで、ほとんどバスの利用がされていない地域もあります。ただ、全地域での取り組みですので、そこだけを抜くというようなこともできませんし、また、上長瀬などは路線バスが通っているため、そういった地域は走っておりません。しかしバスの運営に関しましては、国津の区長会が主になってされているわけですが、バスが走っていない地域であっても運営の会計をされるなど、役割分担を行いながら全地域が一緒になって運営をされているという状況です。

**会長** 運転手さんというのは何人おられるんですか。

**事務局** 2人です。地域のボランティアの方に運転をしていただいておりますが、なかなか運転手のなり手が集まらないというのが現状です。

**会長** 一番の課題は運転手さんの確保ということですね。

**委員** さきほど低床バスの話が出ていましたが、小型のバスを低床バスに入れ替えた場合、費用が高くつくというようなことがあるわけですか。

**委員** 低床バスを導入しようとする、当然、新たにそのバスを購入する必要がありますので。

**委員** 今、そういったバスはお持ちじゃないんですか。

**委員** 小型ではナッキー号だけです。あとはもう少しサイズの大きい低床バスというのはございますけども。

**委員** では、小型では今のところほかに低床バスがないということですね。今後、今あるバスが古くなって買い換える際に低床バスを購入するということになっていくわけですか。それでいくと、将来的にはそういった要請にこたえられる時期が来ると考えていいわけですね。

**委員** バリアフリー法の関係で、新たに導入する車両は全てバリアフリー対応である必要がありますので、今後、車両の更新の際にはそういった低床バスを導入していくことになります。

**会長** 三重交通さんのほうで車両の更新の計画があると思いますが、全て低床バスに更新していくと、ただ、それは時間を待たないと仕方ないということですね。

**委員** そういうふうに言ってくれば分かります。今後、車両の更新の際には低床バスを購入するけれども、古い車両も使えるうちは使うのでもう少し待ってくださいと。

**会長** ただ、それがもっと安く供給されるようになるためには、メーカー側の努力も必要ですし、国のほうからも指導していただく必要があるのかもしれないですけどもね。なかなか割高になるんですよね。

**委員** そうですね、1割、2割とかそういう話じゃなくて、500万アップとか1千万アップといった形ですので、そういう車を導入していくとなると、減価償却費などの上乗せで経費が増加することが考えられます。

**会長** そういった車両が増えてくればコストダウン効果が期待できるのかもしれませんが、今後に期待したいと思います。それでは、あららぎ号の有償運送の更新について、ご承諾をいただけるということでしょうか。（委員承認）ありがとうございました。それでは、あららぎ号の10月以降の運行について承認をいただけたということで決議しておきます。次に、その他の項について説明をお願いいたします。

**事務局** （錦生コミュニティバス、ナッキー号の利用状況等について説明）

**委員** 福祉バスとの兼ね合いはどうなっているのでしょうか。

**事務局** 錦生のバスは福祉バスと重なることから、今、地域では、ほっとバス錦がこれだけ多くの方に利用されている状況を踏まえ、福祉バスをやめて、ほっとバス錦に乗りかえてもらおうと、1つのバスで効率よくしていこうと、そういった動きがあります。

**委員** ほっとバスというのがどういうバスなのかあまりよく分かっていないので教えてください。

**事務局** ほっとバス錦といいますのは、錦生地域が運営主体となって深山運送さんと契約のうえ、21人乗りのバスを使って運行しております。運行時刻や運賃等も地域が自分たちにあった形に決められております。

**委員** バスは何台走っているんですか。

**事務局** 車としては1台で運行しています。

**委員** どういうルートを走っているんですか。

**事務局** 名張駅から錦生、大和竜口のほうまで運行しております。

**委員** 錦生地域に限定されたバスですね、分かりました。ところで、百合が丘で年間4千円で利用できるバスが走り出したと聞いたんですが、それは市は関係ないんですか。

**事務局** 市のほうでは健康福祉部が担当しています。大型の住宅地で路線バスが走っている地域であっても坂道が多いですとか集会所まで遠いといった場合の交通手段として使われております。

**委員** 福祉バスやそういったバスを全て抱き合わせて、どうすれば限られた予算を効率よく使えるのかということを常に考えていけばなお良いのではないかと思います。

**会長** それは前回の答申のときにも、福祉バスを含めた名張全体のバス交通のあり方ということであがっていましたが、市のほうでもお考えいただいているところだと思うんですけども、すぐにはやはり難しいかもしれませんが、早い段階で筋道というのはしっかりつくっていただけたらなと思います。確かに無駄をなくすというのは大事なことで、なおかつ市民の方の利便性を高めていくということの検討を進めていただきたいと思います。

**委員** ほっとバス錦のチケットが既に105万円ほど売れているということなんですが、これは乗らなくても協力して買っているのか、どのようにされているんでしょうか。

**事務局** 地域では現在に至るまで60回近く検討会議が開かれてきましたが、検討状況を地域の広報紙に逐一掲載し、住民への周知を図られてきました。そういうことで、自分たちの地域のバスは自分たちで経営していかなければならない、そのためにはこれだけ足りないといったことが地域の方々も分かってきます。そして、住民の皆さんにマイバスの意識を持ってもらうという意味からも、チケット購入の協力を各戸に要請し、その結果、ほとんどのご家庭でチケットを購入されたということです。

**会長** やはり地域の方々の思いの結集というのがマイバスという意識につながっていると思いますし、あららぎ号もそうだと思うんですけども、そういった地域の方々の思いを前面に出していくことが必要なんだと思います。今後、また新しい動きがありましたら、その都度、公共交通会議を開催し、委員の皆様にご協議いただくことになると思いますのでよろしく願いいたします。それでは、第3回名張市地域公共交通会議を終了したいと思います。ありがとうございました。